



No. 7, 2003.4.25

新たな充実・発展期を迎えて

香川大学工学部長／大学院工学研究科長 石川 浩

平成9年10月に創設、翌年4月先行3学科にたくましい若人を迎え入れた本学工学部は、その後順調に学年進行の歩みを進め、昨春には初の卒業式典を挙行するとともに、各学科を母体とした大学院工学研究科修士課程を開設し、全4専攻に第1期院生を迎え入れました。今春には後発1学科を含む全4学科で卒業生を社会に送り出し、名実共に工学部が完成しました。これ偏に、関係省庁をはじめ地域各界各層のみなさま方の多大のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼を申し上げます。



ご高承のとおり、一昨年6月、国立大学の構造改革の方針（遠山プラン）が世に出て以来、国立大学を取り巻く環境は極めて厳しく、激動の大変革時代を迎えています。本学では、本年10月に香川医科大学との統合・再編による新生香川大学の創設、引き続き16年4月には国立大学の法人化が予定され、生き残りを賭けた大競争時代に突入しました。このような時代背景を受けて、この度、図らずも工学部長に再選され、引き続きこの困難な時代の学部の舵取りを任されることとなりました。「支えられ身を引き締めて初明かり」の句境に託して、さらに全力を尽くす所存です。

本学部では、工学系では東大に次いで全国第2位となる3つの寄附講座「基礎地盤動力学（穴吹工務店）講座」「メンテナンス工学（四国機器）講座」「ベンチャービジネス創生工学（香川証券）講座」を含めて、国内外の大学、試験研究機関、民間企業など多様な各層から迎え入れた教授陣が、教育、研究、管理運営、地域貢献、国際貢献、国際通用性などのあらゆる観点から個性輝く学部づくりに邁進するとともに、学年進行に伴う来年4月の大学院工学研究科博士課程の開設を含めて、地域の熱い期待に応えた「香川モデル」を完成させるべく、着々と準備を進めています。

時代ニーズに適った学部運営組織の改編、創設理念「文理融合」の実現を目指した教育研究活動を推進するとともに、地域産学官連携の中心的役割を担って、共同研究・受託研究・プロジェクト研究等の積極的な推進、科学技術フォーラムや国際会議・シンポジウム等の開催、外国の大学との国際交流協定の締結、国際インターンシップの実施など、地域に、日本に、そして世界に開かれた工学部・大学院工学研究科の整備・充実、さらなる発展を目指して、これまで以上に精力的に各種の取り組みを続けて参ります。今後とも、何卒よろしくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

副学部長 就任挨拶

総務企画・広報担当 三原 豊

ここ 1 年、工学部にとって、博士課程の新設、大学の法人化、香川医科大学との統合と、課題が目白押しの時期を迎えようとしております。このような時に、副学部長に任命され、役割の重さを身にしみて感じております。微力では有りますが、工学部のために全力を尽くしたいと思っております。

また、教育・研究において地域との連携に基をおいた「香川モデル」の完成、一人一人の教官、事務官の方々が、得意なところで力の発揮できる運営を心がけたいと思っています。皆様方のご指導とご協力、よろしく御願ひ申し上げます。

教育・研究担当 増田拓朗

この度、副学部長を命ぜられました。とても勤まりそうもないので逃げ出したいという思いが半分、勤まらなくても責任は任命権者にあるという居直りの気持ちが半分ですが、お引き受けした以上は無責任なことにはできないなと気持ちを引き締めております。まだ、職務・権限についての具体的なイメージを把握できていませんが、本学部の教育・研究のさらなる発展と充実のためにひと働きできればと考えております。ご指導、ご協力のほど、よろしく御願ひ申し上げます。

定年退官を迎えて

知能機械システム工学科 塚本 一義



大学教育の第 1 の使命は「社会に有用な人材を送り出すこと」、研究の第 1 の目的は「研究成果が社会に役立つこと」をポリシーとして教育と研究を進めてきました。

研究は競争原理が働き、絶えず外部評価に晒されています。一方、教育は、相手が学生ゆえに往々にして自己満足に陥り易い傾向があります。このことを念頭に教育と研究に充実した日々を過ごさせて頂きました。定年までの在任期間は 4 年間でしたが、工学部創設の重要な時期に職務をまっとうできたのも、教職員、産業界および官公庁の皆様のお陰と心から感謝しております。大学に来てから始めた「健康医療工学」「交通予防安全工学」の研究は、研究室の学生と共に同僚の新進気鋭の和田助教授が引き継ぎます。日々感謝の気持を忘れず、定年後も生命ある限り新たな明日に向かって再び走り続けようと思っております。

安全システム建設工学科 佐々木 孝



香川大学では 36 年間お世話になりました。主として香川県からの受託研究にそのほとんどを費やしました。初仕事は香川県土器川上流部の天川頭首工（取水施設）の水理

模型実験でした。土器川河川流量は少ないため、洪水時に浮遊砂の流入はあっても掃流砂を可能な限り排除しつつ取水して山をくり貫いた水路トンネルを通じて天下の満濃池の貯水量を補給するという壮大なものでした。香川大学に勤務して満濃池に関わりを持ったことは幸運でした。その後は主として香川県沿岸域の港湾計画、土木工事、沿岸利用計画および下水処理水の挙動解析などの環境アセスメント関連の調査研究に没頭しました。現場を離れずに多忙ではありましたが香川県の陸・海に直接触れ、豊かな自然を満喫させていただいたことは幸せでした。退官に当り、皆様のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、工学部のますますのご発展をお祈り申し上げます。どうもありがとうございました。

特集：国際インターンシップ報告

工学部では、平成 12 年度から海外のインターンシップ協定校と国際インターンシップ学生の派遣・受入を行っています。平成 14 年度には各 5 名の派遣・受入を実施し、海外の協定校との交流を続け、結びつきを強めています。香川大学から海外に派遣した学生（当時 3 年、修士 1 年）にその成果を報告してもらいました。（広報室）

苦勞から得た最高の喜び

安全システム建設工学科 青井香居

私は安全システム建設工学科の学生ですが、全く専門外の企業 ALCATEL（フランス）でインターンシップを経験してきました。不安が全くなかったわけではありませんが、いつもの私の『なんとかなるっ！』で、実際 2 ヶ月間やり遂げました。最初の約 10 日間、英語で書かれた説明書を毎日毎日入社して退社するまでずっと読み続けるのみです。どうしても集中力が続かないときもありました。途中で投げ出したいともなりました。しかし、読み終え、理解するまでは仕事を始めることもできません。とにかく耐えて根性で読みきり、やっと仕事を与えられ、初の仕事に手をつけるときはワクワクといったものでした。しかし始めてみれば難しく、思うように進みません。パソコンで仮想モデルを製作していたときです。どうしても解決できず完成できないときがありました。とても悔しく、絶対なんとかしてやると思い、まだ人がほとんど入社していない時間から、皆帰ってしまった後まで残ったこともあります。最終的には 3 つのプロジェクトをこなし、企業内でのプレゼンテーションもしてきました。初めての英語でのプレゼンテーションです。最後に部長さんに「Thank you.」と言われ、そのとき初めて 2 ヶ月間自分のやってきた事に自信がもてました。また、今年の 1 月に、私の携わったものが製品化されたそうです。自分の仕事が一助になっていることに大きな喜びを感じています。

また、ALCATEL に短期バイトに来ていた、年



中央が青井さん

の近い気の合う友達ができました。彼女は、話すようになって約 1 週間でバイトが終了してしまいましたが、週末すぐに誘ってくれ、彼女の家族はとても優しく迎え入れてくれました。昼食を庭でとり、その後皆で山登りに行きました。木の実を取って食べ、毒の花も教えられ、すれ違う登山者とも「bonjour」と挨拶を交わしました。彼女の妹たちは英語が話せませんがニコニコして横に並んできました。そして私が彼女と話していると、時々「Sorry. I don't understand!」と覚えたばかりのその一言で話に入ってきました。今でも思い出します。その日は私が Annecy に滞在してちょうど 1 ヶ月でした。最も楽しかった 1 日です。彼女とは今も連絡を取り合い、彼女の両親は今年の夏は自分の家に滞在しないかと言ってくれています。私の大事な友達、家族です。その他にも、間違っって乗ってしまった地下鉄で同じ間違いをした女の人とも友達になったりと、色々な出会いがありました。

私はこのインターンシップを経験し、学生の甘さを痛感しました。自分の語学力のレベルを改めて思い知りました。それは、私にとって自分を向上するために通らなければならない道であったと思います。今回このような、とても素晴らしい経験をさせていただき感謝しています。

ドイツでのインターンシップ体験記

信頼性情報システム工学科 河野正博



左から二人目が河野君

平成 14 年 8 月 15 日から 2 ヶ月間ドイツの Fraunhofer Institut で実習させていただきました。インターンシップの期間中は Sznajd Model のシミュレーションをしました。最初は Sznajd Model とはどのようなものなのか分からなかったけれど、論文を読むと Sznajd さんが考えた簡単なモデルだという事がわかりました。実習前は少し不安でしたが、会社の方が丁寧に説明してくれて実習内容が大学で学んだことも少しあったので最後まで実習を続けることが出来ました。

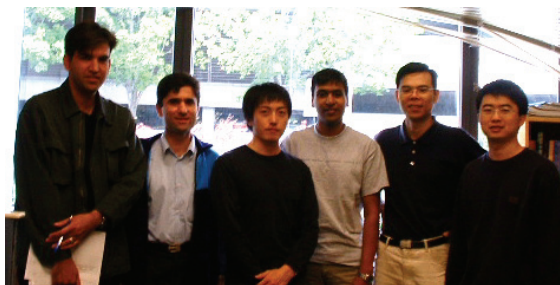
会社の人は親切な人ばかりでバスに乗り遅れて会社まで歩いて行っていたら、知らない人なのに一緒に車で連れて行ってくれた事もありました。同じ部署の人とは毎日一緒にご飯を食べたり、山の中を通る近道を教えてもらったりしました。しかし次の日、山の中を通って行くと会社までの距離は 3 キロなのに 1 時間もかかってしまいました。

休日にはホストファミリーの方がセーリングに連れていってくださり、自然の厳しさを教えてくれました。

今回のインターンシップを通じて、外国の企業で仕事をするという貴重な経験を得ることができ英語の必要性も感じました。またインターンシップ受入れ企業やホストファミリーの選定をしていただいたボン・ライン・ズィーク大学の Dr. Vera Schneider や国際インターンシップの実施に当たってご尽力いただいた国際交流委員長の岩本教授と秦教授に心から感謝申し上げます。

ブリティッシュコロンビア大学の研究室で

安全システム建設工学専攻 和田光真



左から三人目が和田君

研修先: カナダ、ブリティッシュコロンビア大学、土木工学科、コンクリート材料研究室

研修期間: 2002 年 9 月～10 月 (約 1 ヶ月)

研修内容: ファイバー入りコンクリートの乾燥収縮試験

研修先であるコンクリート材料研究の学生は約 10 人で、日本の大学とは随分違い、ほぼ全員が留学生、しかも、8 割が博士課程であり、その中の 9 割が既婚者でした。これには驚きました。出身国も、短期留学生を含めると、中国、韓国、台湾、インド、イラン、イタリア、という何とも多国籍な環境でした。研究室内では、常に 3 カ国語以上が飛び交っており、結構にぎやかでしたが、英語と日本語以外は耳に入ってこないのが、レポート作成中でも特にうるさいと感じたことは一度もなく、実に快適に過ごすことができました。また、実験装置の使い方、コンクリート作成の補助、研究指導など、事細かに説明していただいた博士課程の学生の方には大変お世話になり感謝しています。特にありがたいと感じたことは、たった一ヶ月しかいない訪問者を手厚く迎え入れ、メンバーの一員として接してくれたことです。研究が順調に進んだのも彼らのおかげであり、本当に感謝しています。

私は、この貴重な経験を通して多くのことを学び、体で感じ取り、そして、苦悩もしました。多くの方々のご支援をいただき、国際インターンシップ研修を終えることが出来たのは一重に“仕掛け人”となって頂いた皆様のおかげであり、この場をお借りして絶大なる感謝を申し上げます。

第2期生卒業式

3月25日香川大学の卒業式が挙行されました。材料創造工学科の最初の卒業生を含む二期生244名が晴れて卒業生として巣立っていきました。卒業式後、後援会主催の卒業記念祝賀会が開催され、後援会幹部の方々から厚い励ましの言葉が贈られました。また、学科毎に、卒業生主催の謝恩会も開催され、色々な思い出話に盛り上がりました。

今年度の卒業生のうち、36.8%が大学院への進学を、61.0%が就職を希望し、就職の内定率は90.0%、公務員希望等の一部の学生を除き、ほぼ希望者の全員の就職が決定しました。

進学希望者は、さらに2年間の大学院修士課程での勉学、研究に励みます。(広報室)

卒業生表彰者一覧

工学部長賞	古田朋之 (安全)、松永貴輝 (信頼)、合田拓史 (知能)、恵 智裕 (材料)
後援会長賞	原 香 (安全)、森末正宜 (信頼)、湯野恵輔 (知能)、中村充男 (材料)
工学部特別賞	三宅 徹 (知能)、藤田圭生 (材料)、 学生ロボット研究所青少年理科教育研究グループ
関連学会 学生表彰等	高森大資 (安全)、伊藤純 (信頼)、西岡彩美 (知能)、日笠裕也 (材料)、 岡添真衣 (安全)

研究室紹介：知能機械システム工学科 平田研究室

本研究室では、コンピューターシミュレーションと材料強度評価技術を応用した研究に取り組んでいます。シミュレーションとは、物体の変形状態や振動現象、流れの状態、温度分布、電磁場の状態などをコンピューターで方程式を解いて求めるものです。地域開発共同研究センターの技術交流会や地域企業との共同研究を通じて高速

の衝突現象、振動、座屈などの研究をシミュレーションを応用して行っています。研究室独自の開発としてはマイクロ血圧計の開発も行っており、血流量から血圧、血液のサラサラ度などを得るために、血管内の血流と血管の変形のシミュレーションと実験的検証を行いました。現在大学院生3名、学部卒研究生3名の陣容です。

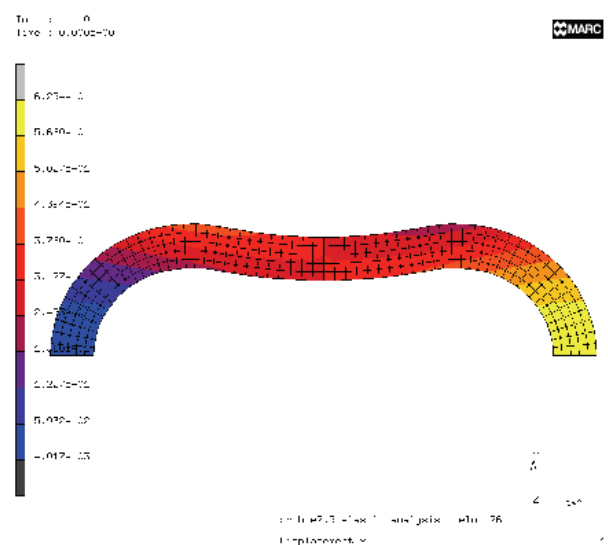


図1 血管変形シミュレーション

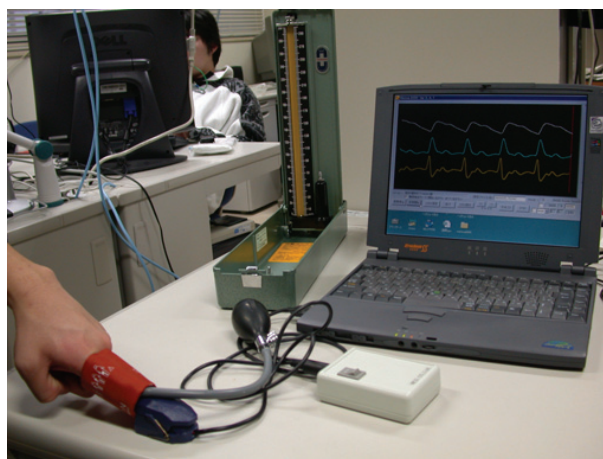


図2 血圧計原理確認試験

第6期生入学

4月6日、香川大学の入学式が挙行政され、工学部6期生として、新しく283名の新入生を迎えました。入学式後は、今後の講義の履修、勉学のガイダンス、サークル活動のオリエンテーション等が行われました。

また、工学部の学生は、プログラミング等の講義で用いるノートパソコンのセットアップに最初に汗を流し、4日間の導入行事を終了し、10日からの講義で新しい大学生活をスタートしました。(広報室)

地域開発共同研究センター棟が竣工

地域開発共同研究センターは、香川大学の研究者と民間企業等との共同研究の実施など産学連携活動を推進するため、平成12年度に工学部校舎内に設置され、これまで産学連携に資するセミナーや講演会、企業訪問等の数々の活動を実施してきましたが、このたび、工学部が所在する林町キャンパス内にセンター棟が竣工しました。

センター棟は、工学部第1号校舎の東側に位置し、3階建て、延床面積約1,150㎡であり、35㎡～74㎡にわたる共同研究室を計6室設けるとともに、セミナー・講義室や特許相談室を備えており、4月から共同研究室において本学教官と民間企業等共同研究等を開始しています。

このように今年度からハード面において整備



地域開発共同研究センター棟 外観

された当センターは、今後とも引き続き産学連携の推進を活発に進めていきます。(地域開発共同研究センター・助教授・石川博昭)

トピックス

学術賞受賞等

1月14日(火) 塚本一義 教授、交通事故抑止対策の推進に対する特別表彰(香川県警察本部)

3月26日(水) 呉 景龍 教授、第10回源内大賞受賞(エレキテル尾崎財団主催)

教官・事務官人事異動

3月31日(月) 定年退官: 塚本一義 教授、佐々木 孝 教授。転出: 松原行宏 助教授。

4月1日(火) 採用: 神崎 正 教授、高橋 悟 助教授、野々村敦子 助手、山中 稔 助手、塚本一義 客員教授、中山千晶 客員教授、岩部達雄

客員助教授、藤田陽平 学務係員、立和名慎一 実験実習係員、鈴木崇彦 実験実習係員。昇任: 平田英之 教授、北島博之 助教授、和田隆広 助教授、細木真保 助手。転出: 上原 徹 事務長、平井正博 事務長補佐、宗雪勝也 学務主任、長谷川雅世 学務係員、宮村卓児 会計係員。転入: 吉仲 且喜 事務長、瀬戸修一 事務長補佐、鍋井史郎 学務主任。

編集: 工学部広報室

電話: 087-864-2000、FAX: 087-864-2031

e-mail: info@eng.kagawa-u.ac.jp

<http://www.eng.kagawa-u.ac.jp/news/>